

次号予告

2017年1月号

特集

グリーフケアを考える 終末期ケアの充実から、地域との 関わりまで

死は亡くなる本人だけの出来事ではなく、家族を中心とした親しい人にとっても大きな出来事です。その出来事が家族にもたらすことのひとつが、大切な人との死別による「悲嘆(＝グリーフ)」。

大切なひととの死別をこれから経験する/した方へのサポートとして、死別前後にできることには一体何があるのでしょうか。本特集では、「グリーフケア」とは何かを整理したうえで、在宅ケアのなかでできる個別的な関わりから、地域に根ざした看護師だからこそできる活動まで、幅広い実践を紹介。グリーフケアの在りようを知り、深化を展望します。

「悲嘆」について、地域の看護師が関われる 可能性とは●小野若菜子

遺族研究にみる「望ましい終末期ケア」 「望ましい看取り」●青山真帆・宮下光令

【実践報告】

現場で行なわれる訪問看護師のグリーフケア ●岩本ゆり・服部絵美・蛭田みどり・本田晶子・志茂友紀子

INTERVIEW ケアのヒュッテ

守谷とき子さん、大塚純子さん、 井上由紀子さん(株式会社寿エンタープライズ)

編集後記

「先 駆者となるには、橋となれ」

これは、小説『霧に橋を架ける』(キジ・ジョンソン著、創元SF文庫)の最後に引用されていた「ウェルズのことわざ」です。今回の特集を通じて、この言葉の含蓄をかみしめました。激流や深い渓谷など次への到達が困難な地点も、知識・経験が豊富な達人なら渡ることができる。しかし、多くの人が安全・容易に渡るためには、そこに「橋」をかける必要がある。

専門看護師は困難や課題を見極め、多くの人がそれを乗り越えられるように研究や方法を考へて、各関係機関との協働・連携を橋渡しし、実行できる。つまり、先駆者の素養が培われている方々なのだと思います。…小林

マギーズ東京がオープンしました。センター長は、本誌連載の著者・秋山正子さん。まさに「もっとやさしく、もっと自由に!」を体現されています。マギーズは、がんによる影響を受けたすべての人が、予約なしにいつでも訪れることができます。これはつまり、「サポートをする側」としては「いつ、どんな悩みをもつ人が訪れるのかわからない」ということ。その点で、病院で行なわれる「相談支援」とも異なり、サポートをする側には、より即興的な態度・関わりが求められることになります。「ケア」「支援」「サポート」——。マギーズの実践は、そういったものの本質に一步迫るものになるのでは!?と、熱視線を送っています。…小池

訪問看護と介護 第21巻 第12号(通巻246号) 2016年12月15日発行(毎月1回15日発行)

発行:株式会社医学書院 代表者:金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2016, Printed in Japan

1部定価:本体1,400円+税 年間購読料(税抜,送料弊社負担,年間12冊):12,600円(冊子版)/15,600円(冊子+電子版/個人)/12,600円(電子版/個人)

販売部:☎03-3817-5659 社内案内:☎03-3817-5600

『訪問看護と介護』編集室:☎03-3817-5787 FAX03-5804-0485 担当:小池・小林・早田

✉ houmon@igaku-shoin.co.jp Twitter @houmonkango

医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp/> ウェブマガジン『かんかん!』 <http://www.igs-kankan.com>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写,スキャン,デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。

大学,病院,診療所,企業などにおいて,業務上使用する目的(診療,研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは,その使用範囲が内部的であっても,私的使用には該当せず,違法です。また私的使用に該当する場合であっても,代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

【JCOPY】(出版者著作権管理機構委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は,そのつど事前に出版者著作権管理機構

(☎03-3513-6969, FAX03-3513-6979, ✉ info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

※「訪問看護と介護」は,株式会社医学書院の登録商標です。

1011 訪問看護と介護 vol.21 no.12 2016